

【放牧による山林管理】（大阪府 山辺地域放牧推進協議会）

- 山辺地域では、伐採地が手入れされずに放置され、野生動物やカメムシ等による稲作への被害も深刻化。こうした中、平成27年、地域の有志が「山辺地域放牧推進協議会」を設立し、農作物への被害防止と里山の景観保護を目的に放牧の取組を開始。
- 伐採地の斜面を整地し、シバ苗を定植した上で、中山間地域での放牧に適している「土佐あかうし」を放牧。平成30年は1.48haで3頭を周年で昼夜放牧しており、今後、放牧頭数の増加を図る予定。
- 適正な密度での放牧により、シバ草地の維持管理に牛を役用として活用することが可能となり、野生動物やカメムシ等による農作物への被害も低下。

取組内容

- H27: 2～3月に放置されていた伐採地の雑草や雑木を撤去し、木柵・電気牧柵、水飲場や簡易捕食場を設置。3月に土佐あかうし(雌)2頭を導入し、0.5haで放牧開始。5月に0.5haずつシバの定植を行い(計3,500本)、定着するまで管理放牧を実施。
- H28: 6月にシバの苗2,500本を定植し、定着後に放牧面積を1.0haに拡大。前年、導入した雌牛の種付けを行い、翌年2頭出産。
- H29: シバの密度が低いため専門家に技術指導を依頼、新たなシバの共同研究を実施。引き続き繁殖雌牛の種付けを行った。H30年に2頭出産。後継牛1頭を増頭し放牧。
- H30: 放牧面積を1.48haに拡大。3頭を放牧した。引き続き繁殖雌牛の種付けを行い、H31年に2頭出産。



平成27年

放牧開始直後の放牧場とシバの定植風景(右奥)



平成30年

3年後の放牧場(シバ占有率80%)

成果

- 野生動物やカメムシ等による農作物への被害の減少。
- 山林管理と景観保全。
- 希望者のシバ定植への参加等、農村と都市の交流。

取組実績	1年目 (平成27年)	2年目 (平成28年)	3年目 (平成29年)	4年目 (平成30年)
放牧面積	0.5ha	1.0ha	1.0ha	1.48ha
放牧頭数	2頭	2頭	2頭	3頭
放牧期間	180日	365日	365日	257日

能勢町

